



トヨタは、
いっしょに歩んでいきます。

もっと、たくさんさんの感動を応援したい。
これもトヨタの願いです。

トヨタは、全国で16年600回を数えるトヨタコミュニティコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワク、ドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。

倉敷管弦楽団 第24回定期演奏会

PROGRAM

'98 5/31(日)

午後2時開演

倉敷市民会館

KURASHIKI
ORCHESTRA

主催：倉敷管弦楽団
共催：倉敷市文化連盟、倉敷市
協賛：岡山県トヨタ販売会社グループ、トヨタ自動車株式会社
協力：(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
後援：NHK岡山放送局、山陽放送、岡山放送、KBS瀬戸内海放送、
岡山県郷土文化財団 (順不同)

Message

ごあいさつ

倉敷管弦楽団
団長 田辺幹夫

若葉をわたるそよ風がさわやかにほおをなでる初夏の季節になりました。

本日は私達倉敷管弦楽団の24回目の定期演奏会において頂き、ありがとうございます。

今年の指揮者はもうすっかりおなじみになりました金洪才氏、それからヴァイオリン独奏にはソリストとして国内外で御活躍中の天満敦子さんをお迎えしてブルックナー、シベリウスの大曲に挑戦しました。

本日は昨年からのきびしい練習の成果を最大限に発揮して皆様の御期待にお応えしたいと願っています。

どうか最後までゆっくりお楽しみ下さい。

今後も変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

Program

プログラム

ウェーバー: 歌劇「オベロン」序曲

シベリウス: ヴァイオリン協奏曲 ニ短調Op.47

第1楽章 Allegro moderato

第2楽章 Adagio di molto

第3楽章 Allegro ma non tanto

休 憩

ブルックナー: 交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」

第1楽章 Bewegt, nicht zu schnell
(活発に、速すぎないように)

第2楽章 Andante quasi Allgretto
(やや速めのアンダンテ)

第3楽章 Bewegt
(活発に)

第4楽章 Bewegt, doch nicht zu schnell
(活発に、しかし速すぎないように)

Profile

プロフィール



指揮：金 洪才

1954年生まれ。幼少よりピアノを学び、桐朋学園大学で指揮を小澤征爾、秋山和慶、森正の各氏に師事。

1978年3月、東京シティ・フィル特別演奏会でデビュー。

1978年12月、桐朋学園オーケストラ第49回定期演奏会で指揮。

1979年9月、第14回東京国際指揮コンクールにて第2位と、初めての特別賞（斎藤秀雄賞）を併せて受賞。入賞記念コンサートで新日フィル他、国内6都市で競演し注目を集める。

1980年6月、テレビ番組「オーケストラがやってきた」専属指揮者オーディションで200数名の中から選ばれ話題となる。

1981年1月、NTV「私の音楽会」専属指揮者として読売日本交響楽団も指揮する。

1981年4月、東京シティ・フィルの指揮者就任。

1984年4月、名古屋フィルハーモニー交響楽団、1987年4月、京都市交響楽団の指揮を歴任の傍ら、東京都交響楽団を始め全国主要オーケストラの定期演奏会、名曲コンサートなどに多数出演。

1988年7月、中国国立放送管弦楽団を指揮し好評を博す。

1989年3月、東京（東響、サントリーホール）大阪（京響、ザン・シンフォニーホール）においてデビュー10周年特別演奏会を行う。

1989年より、ベルリンにおいて著名な作曲家ユン・イサン氏の下で研鑽を積む。

1991年帰国後ユン・イサン氏の作品（新日フィル、東響、京響、他）交響曲第2番、第3番を始め数多くの管弦楽作品を日本初演し、成功をおさめる。特に1992年11月東京芸術劇場での交響曲第3番（新日フィル）は、NHK教育テレビでも放映され絶賛を博した。ユン・イサン氏はインタビューで、彼の指揮について「とても大胆かつ繊細で、曲をはっきりと把握し、自分の情緒の世界まで引き上げ、東洋的な神秘性、流動性をよく発揮した。私は高く評価している。」と絶賛された。

1992年9月コリアンシンフォニーオーケストラを指揮してニューヨーク・カーネギーホールでアメリカデビューを果たし、成功をおさめた。その間、内外の著名なソリストとも競演。主な共演者に、ピアニスト：内田光子、中村紘子、アンドレ・プラトニョフ、ジャンイヴ・ティボーテ、清水和音、宮沢明子、安川加寿子、練木繁夫、バオラ・ヴォルヘ、ウェンディ・ファンチェン、花房晴美の諸氏。ヴァイオリニスト：江藤俊哉、前橋汀子、堀米ゆづこ、ヴェセリン・バラシュケヴォフ（元ウィーン・フィルコンサートマスター）、和波孝禧、宗倫匡、潘寅林、漆原啓子の諸氏。チェリスト：岩崎洸、菅野博文、ルドヴィット・カンタ、山崎伸子、安田謙一郎、上村昇の諸氏。歌手：岡村喬生、佐藤しのぶ、ネリー・リー、勝部太、林誠、その他に、アラン・カークス（トランペット）、アル・ビズツェッティ（トランペット）、コンラード・グロート（トランペット）、マルティン・クレツァー（トランペット）、クラウス・バレンドルフ（ホルン）、松崎裕（ホルン）、クリストハルト・ゲッスリング（トロンボーン）、パウル・ヒュンベル（チューバ）、山下和仁（ギター）、荘村清（ギター）、御喜美江（アコーディオン）、安倍圭子（マリンバ）、佐久間由美子（フルート）、中川昌巳（フルート）の諸氏とも共演し好評を博す。

これまでに、NHKTV教育、衛星、FMコンサート（新日フィル、東フィル他）に多数出演し、また録音においても東芝EMI、キングレコードなどからもCDが発売されている。

現在、最も期待される指揮者の一人であり、内外のオーケストラの定期演奏会、特別コンサートなどに多数出演し多忙な活動を展開している。

Profile

プロフィール



ヴァイオリン独奏：天満敦子

東京都出身。幼少よりヴァイオリンを始め、NHK教育テレビ「ヴァイオリンのおけいこ」に出演。東京芸術大学及び同大学院修了。

1974年第43回日本音楽コンクール（当時は毎日音楽コンクール）ヴァイオリン部門で第1位となり一躍楽壇から注目される。1975年ロン・ティボー国際コンクール特別銀賞、1976年チリ・サンチャゴ市国際ヴァイオリン・コンクール大賞をそれぞれ受賞。

1984年より海外でも演奏活動を始める。特にルーマニアとは関係が深く毎年のように訪れ好評を博している。天満の一大転機となり、また、代名詞ともなった秘曲「望郷のバラード」もこれが縁で知られる

様になった。1995年9月にはルーマニアのブカレストで行われたジョルジュ・エネスコ没後40年記念のエネスコ・フェスティバルにマゼール、メータ、メニューイン、ロジェストヴェンスキー、ルプーら世界の巨匠たちと共に招かれ演奏した。また1996年には天満ファンが多数参加して『天満敦子と行く望郷のバラード・ツアー』も催行される程の人気となった。

1994年7月テレビ朝日系列「徹子の部屋」、同年11月TBS系列「モーニングEYE」に出演、天満の人柄、骨太でおおらかで温かみのある音色、『望郷のバラード』にまつわるエピソードなどが多くの視聴者の心をとらえ、大きな反響を呼んだ。

また天満敦子は、音楽を通しての国際親善の面でも活躍している。

国際交流基金の親善大使として、1992、94年のルーマニア（94年は他にブルガリア、チェコ、スロヴァキアも）を始めとして、1995年1月のミャンマー、シンガポール、次いで同年9月の中国、1996年の中近東諸国及びエジプト、モロッコ、そして1997年にはカナダへも派遣されいづれも大成功をおさめている。特にミャンマーでは戦後50年で初めてのクラシック音楽会ということで、超満員の聴衆に熱狂的に迎えられ大絶賛の嵐となった。

1997年1月、神奈川県立音楽堂にて無伴奏の演奏会を行い、天満敦子の新境地を踏むものとして高く評価された。

ますます、円熟味を増す天満敦子は、音楽の魅力もさることながら、その人間的魅力も幅広く支持されている。天満の演奏会を聴いた聴衆の多くは、屈託のない人柄にもひかれ、全国で再演を望む声が高い。

CDでは平成5年度文化庁芸術作品賞を受賞した『現代日本のヴァイオリン音楽抄』、大ベストセラーとなった『望郷のバラード』、『シャコンヌ』（以上アートユニオン）、『望郷のバラード・日本初演ライブ』、『哀歌・ベルタのノクターン』（以上コンサートイマジ）などが出ており、高い評価を受けている。

Kurashiki Orchestra 倉敷管弦楽団



「美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に1974年に設立しました。文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。82年には岡山県文化功労賞、85年には倉敷文化連盟賞を受賞しました。

定期演奏会の客演指揮者には、早川正昭氏、フォルカー・レニック氏、堤俊作氏、古谷誠一氏、湯浅卓雄氏、金洪才氏、佐渡裕氏、星出豊氏、田中一嘉氏、田中良和氏、小出雄聖氏、小田野宏之氏ら、フルートでは世界的巨匠ジャン・ピエール・ランバル氏、ヴァイオリンのイヴリー・ギトリス氏、和波孝禧氏、前橋汀子氏、豊田弓乃氏、景山誠治氏、漆原啓子氏、ピアノの深沢亮子氏、伊藤恵氏、花房晴美氏、チェロの岩崎洸氏、安田謙一郎氏、山崎伸子氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏、茂木大輔氏、トランペットの津堅直弘氏、ホルンの松崎裕氏、ギターの福田進一

氏らを招聘。また岡山県内で活躍する音楽家との共演も行っています。

演奏曲はバロックから現代曲まで幅広く、團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」を初演。オペラではモーツァルトの「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」。ビゼーの「カルメン」。J.シュトラウスの「こもり」。フンパーディングの「ヘンゼルとグレーテル」。プッチーニの「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」等を演奏。

創立10周年記念演奏会では400名からなる第九演奏会。15周年では「三枝成彰 with 倉敷管弦楽団スーパードリーム・ジョイントコンサート」20周年ではイヴリー・ギトリス氏、岩崎洸氏との「コンチェルトの夕べ」を開催しました。倉敷音楽祭へも毎年出演。今年は創作ミュージカル「温羅と桃太郎」を演奏するなど多彩な演奏活動を続けています。

About today's program 曲目解説

ウェーバー: 歌劇「オベロン」序曲

ウェーバーはドイツの作曲家で、オペラをたくさん書きましたが、「オベロン」を初演して2カ月後に異郷の地ロンドンでわずか40才で客死してしまいました。つまり「オベロン」が彼の最後のオペラになったわけですが、物語は妖精の王オベロンと王妃ティタニアがケンカをして、地上でいかなる苦痛にも負けずに愛し合う男女を見つけ出すまでは和解しないと誓います。この和解のために王の従者の妖精パック等が活躍するという当時流行の魔法劇ですが、その最初に演奏されるのがこの序曲です。ゆっくりした魔法の角笛(ホルン)ではじまる序奏の後、快い速いテンポで進行していきます。

シベリウス: ヴァイオリン協奏曲 二短調Op.47

シベリウスはフィンランドの作曲家ですが、一方ではヴァイオリンの名手でした。しかし大変アガリやすい性格で、折角の演奏技術も人前で満身に発揮できず、ヴァイオリニストとして立つことをあきらめたと言われています。彼は協奏曲をたった1曲しか作曲しませんでした。それがヴァイオリン協奏曲だったということはやはりその因縁からでしょう。

それまでのヴァイオリン協奏曲は独奏ヴァイオリンが主役で、その華麗な技巧を誇示するようなものが多かったのですが、この協奏曲は交響曲としての楽想の中に独奏ヴァイオリンがはめこまれている、といった形の作品で、それまでにない個性が光っています。

第1楽章は厚みのあるハーモニーにヴァイオリンが乗って進んで行き、カデンツァは楽章の終わりではなく、中間部に出て来ます。第2楽章は北欧ならではの千古の湖や沼の静寂を暗示するような曲です。第3楽章は最も活気あふれる楽章で、独奏ヴァイオリンが荒々しいまでの雄叫びをあげます。シベリウスならではの北方民族の力強さを伝えるかのような曲です。

ブルックナー: 交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」

ブルックナーは19世紀後半にウイーンで活躍した作曲家ですが、一方ではオルガンの大家で、オルガニストとしても活躍しました。

今回演奏される交響曲第4番の「ロマンティック」という名前は作曲者自身がつけたものですが、必ずしもそういう内容ばかりではなく、名前にこだわらずに自由に鑑賞すればよいと思います。

第1楽章は霧がたちこめる夜明けのようなはじまりに続いて大自然の美と神への感謝が歌われ、金管の壮麗なコーラルで終わります。第2楽章はチェロの憂いに満ちた主題ではじまり、「暗い森」のリズムが雄大なクライマックスを迎え、その後静かに消えて行きます。第3楽章は「狩」を表す勇壮な曲で、中間にゆるやかな舞曲のトリオをはさみます。第4楽章は序奏に続くオルガンの響きの強大な主題が圧巻で、その後多くのテーマやモチーフが続き、最後に再び強大な盛り上がりを見せて終わります。

KURASHIKI ORCHESTRA

Performers

出演者

団 長/田 辺 幹 夫
 常任指揮者/菊 池 東
 コンサートマスター/佐 藤 真理子
 アシスタントコンサートマスター/阿曾沼 和 代
 アシスタントコンサートマスター/岡 崎 良 弘

運営委員長/坂 口 充 倫
 運営副委員長/原 田 宗 範
 運営委員/木 村 啓 子

Violin I	佐藤真理子 大倉 尚子 西田 紀子 丸山 博樹	◎阿曾沼和代 小林 佐知 旗田真由美 三宅 郁子	岡崎 良弘 陶山 容良 平松 鋭子 柳井 典子	岩瀬 裕子 中塚えりか 福田みどり
Violin II	◎樽谷 美幸 大森 彩子 木村 啓子 藤原 智子	赤木 信子 緒方 明子 笹川 康二 三宅 聡子	上原 保美 岡田 直子 竹村 知子 呼子 純子	大村 奈美 川手理恵子 藤田 真理
Viola	◎八木原周平 塩尻 容子 橋本 敏彦	伊藤 誠 武本 克己 日笠 京子	菊池 東 津島 瑞江 増田 勝	久磨 晶子 新見 由枝 三宅美智子
Violoncello	○石川 恵子 田中 光子 本守妃佐子	池田 誉 田辺 幹夫 森本真理子	栗木由美子 田宮 真紀 山本 礼	黒田 正典 辻田 順子
Contrabass	◎本屋敷勝信 松本 高広	小林 利江 矢田 和之	難波 由宏 矢田 明美	羽原 佳子 ※大井龍太郎
Flute	○坂井 昌子	月本 裕子	浜園 佳恵	
Oboe	◎細美 肇	○佐口 康晴	西村 生子	吉田 容子
Clarinet	◎福力 美保	○安原 由美	秋田由紀子	渡辺 恭子
Fagott	◎稲田 裕彦	中川 佳己	※坂上 仁志	
Horn	◎文谷 功 ※佐藤量太郎	小山 紀章	西崎 大修	吉市 幹雄
Trumpet	◎原田 宗範	高田 忍	濱田 博子	山口 裕司
Trombone	○松尾 浩寿	曾布川拓也	光井 伸行	
Tuba	◎平田 修一			
Timpani	◎影下 明子			

◎パートリーダー ○副パートリーダー ※客演

倉敷管弦楽団団員募集

- 定例練習日 毎週月曜日 午後7:00~9:30
- 練習場所 倉敷市芸文館 アイシアター
- 団員資格 オーケストラ経験者で、練習・演奏会に参加できる人
- 団費 なし
- 募集パート 全パート(但し、木管パートの一部は欠員があった時に限る)
- お問い合わせは 田辺幹夫 TEL.086-263-3521
菊池 東 TEL.086-522-5145

CHACONNE

DEALERS OF FINE VIOLINS

夢奏でる

シャコンヌでは、楽器をはじめケースや部品などを直輸入し、当社の優れた技術で修復、調整の上お客様に大変お求めやすい独自のシャコンヌ・プライスでご紹介しております。高額の楽器、弓に対しては可能な限りの責任を意味する当社の鑑定書を発行し、買い取り・下取りを保証しております。東京海上の保険代理店として万一の事故、盗難に備えた動産総合保険をサービスいたします。また、関連会社カノンでは演奏会・コンサート等においてご利用いただける最高級名器をリーズナブルな料金にてレンタルいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

(株)シャコンヌ

楽器直輸入・修理、調整
楽譜・鑑定・楽器保険
ビジュアル販売代理店
楽器レンタル

株式会社シャコンヌ

【名古屋本店】TEL 052-241-1779
 【金沢店】TEL 0762-21-1779
 【東京吉祥寺店】TEL 0422-23-1879
 【九州小倉店】TEL 093-531-2672
 【札幌店】TEL 011-221-2561

株式会社カノン TEL 052-834-4911
 北京弦芸楽器有限公司 北京・中央音楽学院内
 (ストリング・アート・カンパニー)

営業時間 10:00~18:30 日・月定休

